

平成21年度第1回成田市行政改革推進委員会会議結果概要

1 開催日時

平成22年3月19日(金) 午後3時から5時15分まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 行政棟3階 第2応接室

3 出席者

(委員)

豊田磐会長、齊藤市衛副会長、秋葉博行委員、新井とみ子委員、是永利枝子委員、匝瑳昭次委員、渡邊義本委員

(成田市)

小泉市長、宮野総務部長

事務局(行政管理課) 中野課長、野村副主幹、稲阪主任主事

4 配布資料

- ・会議次第
- ・平成21年度第1回成田市行政改革推進委員会出席者
- ・成田市第5次行政改革大綱(素案)
- ・成田市行政改革推進計画(平成22～24年度)(素案)
- ・成田市第5次行政改革大綱の策定について(諮問)
- ・パブリックコメント(実施期間:平成22年2月24日～3月10日)での意見等の概要
- ・成田市行政改革推進委員会設置条例

5 委嘱状交付

市長から各委員に対し委嘱状が交付された。

6 会長及び副会長の選出

会長に豊田委員が、副会長に齊藤委員が選出された。

7 諮問

小泉市長から成田市行政改革推進委員会に、成田市第5次行政改革大綱の策定について諮問した。

8 議題

(1) 成田市第5次行政改革大綱の策定について

9 議事(要旨)

策定について諮問のあった成田市第5次行政改革大綱の素案について、事務局から説明を行った。あわせて、大綱に基づいた実施計画となる成田市行政改革推進計画(平成22～24年度)(素案)についての説明を行った。その後、答申をまとめるに当たり、大綱・推進計画等についての意見交換があった。主な意見

等は次のとおりである。

行政改革大綱全般について

- ・経営型行政運営という視点や目標管理手法を取り入れることは良いことだと考える。市長が挨拶の中で発言していた「スピード感をもって」という考えを大綱に反映させてほしい。大綱の見直しについては、タイムスケジュールをたて、前倒しできるものは、前倒しして実施していくという考えを盛り込んでもらいたい。
- ・千葉県内でも成田は今後、より発展していく可能性が高い市であると思われるので、中長期視点に立って行政改革を進めてもらいたい。
- ・他市と比較して成田市は財政が豊かであるが、この状態がいつまでも続くとは限らないので、行政、民間、地域がちからを合わせて自分たちのまちを守り、維持していく必要があると考える。
- ・大綱や推進計画は、現在の状況等に対応して、良くまとめられていると考える。行政改革のあり方は各自治体の状況によって違いがあっても良いのではないか。文化行政が遅れている、美術館、博物館、大学がないといった意見も聞かれる。量から質の改革ということで大変良いことであるが、財政的に恵まれている面もあるので、行政改革から外れてしまうかもしれないが、更に一步踏み込んで、文化行政の充実や観光、環境など、市のイメージアップが図れるような積極的な行政改革というのがあっても良いのではないか。

行政改革大綱の基本理念について

- ・「管理型行政運営から経営型行政運営へ」というのは時代の要請であり、良いことだと考える。

行政改革大綱の基本方針について

- ・本庁では質の高い行政サービスが提供されていると思われるが、支所ではまだ不十分なのではないか。本庁だけでなく支所も含めた主な施設で、質の高い行政サービスが受けられるようにしてもらいたい。推進計画で支所機能の見直しについて平成24年度実施とされているが、できるだけ早く取り組んでもらいたい。支所の課が減少するなど、本庁と比較すると支所のサービスは低下していると思われるので、今回の大綱・計画の中で十分見直ししてもらいたい。

支所の設置は、合併による激変の緩和という目的があった。現在では全市的に均衡のとれたサービスをどのように提供していくかという課題があり、検討を続けているところである。

- ・推進項目や推進計画の実施項目には、他と連動しているものが多くあるので、それらを有機的に結び付けて進めてもらいたい。

行政改革大綱の推進項目（推進計画）について

- ・質の改革についても量の改革についても、良くまとめられていると考える。
- ・市民との協働について、観光ボランティアガイドは市外の人もあり、このよう

な人もうまく活用していくことができれば良いと考える。

- ・市に何を求めるかではなく、自分たちで何ができるかといった視点を市民に根付かせていくには、抽象的な表現ではなく具体的な例などがあると良いのではないか。
- ・学校の空き教室などを NPO の活動の場として提供することができるのではないか。

すべての NPO に提供するという事は現実的に難しい。また、金額等の条件面での調整も必要となってくる。

- ・市民との協働により、地域の環境を維持していくことが重要になると考える。地域で草刈りなどを実施しているが、皆で共同して取り組むことが重要である。
- ・地域の環境は地域で維持・管理していかなければならない。行政に頼っているだけでは難しい。自分が住む地域のことは自分たちで協力して良くしていかなければいけないと考える。
- ・高齢化が進む中で地域の福祉を充実させてもらいたい。
- ・定年退職後、趣味を活かして地域で文化活動を行っている人も多く見受けられるので、このような人たちを支援していければ、文化の向上につながるのではないか。
- ・推進計画中の「総合型地域スポーツクラブの設立」は市民との協働になるのか。地域が主体となる総合型地域スポーツクラブの設立に対して行政が支援するという考えなので、市民との協働に分類している。
- ・ポスターの掲載を許可する部署が道路管理課と観光プロモーション課とにわかれていて、一般市民には理解しにくい。どこかの課でまとめて行っても良いのではないか。
- ・推進計画に自動交付機による交付の拡大とあるが、一方で稼働台数は現状を維持するとある。稼働率が低いから台数を増やさないということなのか。
この計画期間中では台数を増やす予定がないが、台数やコスト、サービス内容等については平成 25 年度以降のシステムの切り替えに当たって十分検討していく予定である。
- ・コミュニティバスについて、競争がない中で安易に業務委託をするとなると心配である。
- ・高齢化が進む中で移動手段の確保が重要となっており、コミュニティバスについては、利用率は低いかもしれないが、通院などで役に立っている面もある。
- ・入札の透明性、競争性を確保してほしい。
基本的には一般競争入札を行い、競争性を高めている。また、事前に予定価格を公表し、透明性も確保している。
- ・暮らしの便利帳への広告の掲載について、広告を掲載するのではなく、市で予

算を計上し、図や表を入れたり、文字を大きくしたりするなど、内容を重視し、わかりやすいものにしてもらいたい。

サービスの向上はもちろんであるが、財源は有限であり、広告事業等の新たな財源の確保につながる可能性があるものについては検討していきたいと考えている。

- ・高齢者が増え続けている中で、敬老祝い金をいつまでも続けていくのはいかなものか。
- ・敬老祝い金については、楽しみにしていて喜んでいる人もいる一方、いつまでも続けるわけにもいかず、難しい問題である。コストを削減することはもちろん大切であるが、将来に向けて何をやっていくかということも大切であると考える。
- ・民生委員をやっており、実際に敬老祝い金を配っているが、対象者から「現金をもらえるのはありがたいがもう少し有効に活用してもらったほうが良いのでは」という声も聞く。
- ・既存の公共施設の空きスペースは、展示や発表等の場として有効に活用できるのではないか。
- ・税や保育料、給食費、使用料等の未納金については、組織の中で一元化して対応していく必要もあるのではないか。
- ・医療問題については、1次医療と2次医療の振り分けをうまくやっていく必要があると考える。市民の安心、安全が揺らいでいるといえるのではないか。
- ・大学の誘致などの動きはあるか。

財政的な問題や少子化の進行等により難しい状況にある。

上記意見等を踏まえ答申案の骨子を作成した上で、次回の会議で答申案の最終決定を行うこととする。

10 傍聴

傍聴者 2人

11 次回開催日時

平成22年3月26日(金) 午後3時から5時まで(予定)